

2017/10/06(金)10:42

科目番号	授業科目	英語科目名	単位
25877	コンピュータプログラミング1 a	Computer Programming I	2.0
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員
2017年度 後期	金曜3限	講義および演習	今野 英明
科目区分	<p>専攻科目 (国際協働グループ) 異なる国や民族・地域・文化・社会をつなぐ国際協働の現場において必要となる、グローバルな実践的課題解決能力を身につけることを目的とする。 (地域政策グループ) 地方行政や「新しい公共」を担うNPO/NGO等諸集団や企業などとの多様なネットワークを構築する能力と、地域の課題解決に取り組む実行力を身につけることを目的とする。 (地域環境科学グループ) 地域の環境問題解決のための科学・技術の役割を理解して、その方法論と技術を身につけ、さらに、新たな知識・技能を主体的に学び続けようとする態度、探究力、批判的な思考力などを身につけることを目的とする。</p>		
授業概要	コンピュータ・プログラミングの初心者を対象として、C言語を用いたプログラミングの基礎的内容の講義とUNIX上での演習を行う。		
対応するディプロマ・ポリシー			
到達目標	変数とデータ型、制御構造および関数呼び出しについて理解し、自力でアルゴリズムを考えて短いCプログラムを書けるようになること。よいプログラミング作法を身につけること。		
授業計画	<p>第1週: 授業内容の紹介とプログラミング環境 第2週: プログラムの作成と実行 第3週: 簡単なCプログラム1 (テキストの印字) 第4週: 簡単なCプログラム2 (算術計算) 第5週: 制御構造とif 選択構造 第6週: if/else 選択構造 第7週: switch多重選択と論理演算子 第8週: while 反復構造 第9週: 算術代入文とfor反復構造 第10週: 入れ子構造とdo/while 反復 第11週: break, continue と構造化プログラミングのまとめ 第12週: データ型 (文字, 整数と浮動小数点数) 第13週: 浮動小数点数の利用 第14週: 関数の概要と関数呼び出し 第15週: 試験</p>		
成績評価	<p>期末試験の成績 (60%-70%) とプログラミング課題の提出状況と内容 (30%-40%)により評価する。 ただし、試験結果が合格点に達しない場合には、出席や課題の提出状況にかかわらず、授業は不合格とする。 やむを得ぬ理由がある場合を除き、欠席する毎に評価から減点する。</p>		
教職チェックリスト	<p>学習指導力 それぞれの専攻・分野における講義・演習などを通して、専門領域 (科目) で求められる基礎的あるいは専門的な知識や技能を発達段階・学年の進行に伴ってより深く理解し、習得する。・専門領域 (科目) で求められる論理的な思考力や表現力を身につけるとともに、専門領域 (科目) の様々な事象に対する関心や意欲を育む。 ・追求すべき問題を見つけ、必要な資料や文献を収集・分析・活用しながら、問題を解決していくための基本的な技能を習得する。・資料・文献を分析し、得られた知識や情報、それに対する自分なりの見解を適切にまとめ、発表する。・研究についての基本的事項を身につけ、研究の成果を発表する。</p>		
テキスト	<p>指定しない。 web上に資料を用意する。</p>		
参考文献	<p>「C言語プログラミング」H. M. ダイテル, P. J. ダイテル (ピアソンエデュケーション) 「情報処理技術者テキスト プログラミング入門 C言語」財団法人 日本情報処理開発協会 監修 (実教出版) 「改訂 新 C言語入門 ビギナー編」林 晴比古 著 (ソフトバンク) 「改訂第3版 C言語入門」L. Hancock, M. Krieger, S. Zamir 著 (アスキー) 「プログラミング言語 C 第2版」B. W. カーニハン, D. M. リッチー 著 (共立出版)</p>		
オフィス・アワー	月曜日・5時限・研究室 (メール予約があれば随時)		
関連する授業科目	情報機器の操作		
備考 (履修上の注意等)	<p>事前連絡なしに初回授業を欠席しないこと。 履修にはキーボード入力 (英数字) を不自由なく行えることが必要。 各種資料や演習問題、連絡事項をhttp://echoes.hak.hokkyodai.ac.jp/db/779/に掲載する。</p>		